

氏名	大嶋 良明 (おおしま よしあき) 教授
こんな研究をしています	<p>現代のネット社会はどうなるのか、インターネットが我々をどのように変えるのか、これはテクノロジーのみの問題ではなく、広く人間の知的な営みに関わる問題であり文化の問題です。私たちはネット社会を「多文化情報空間」ととらえて、その特性や問題点を情報学の立場から学んで行きます。特にネット社会でのより良い自己実現を目指して、ソーシャルメディア、メディアリテラシ教育、Webを基盤とする情報通信、eLearningやePortfolio等の教育工学的手法の研究に関心があります。</p> <p>最近の研究関心はテキストマイニングなど機械学習の手法を用いてインターネット上のビッグデータを分析することです。またメディア情報処理とミュージコロジーの観点からコンピュータ音楽、電子楽器について研究をしています。</p>
こんな成果を挙げています	<p>大嶋良明, 「われわれにとって情報とは何か?」, 『異文化別冊: 国際文化情報学とは—その可能性と課題』, 2010, 通巻第1号, pp. 18-31.</p> <p>大嶋良明, 「夏期 SAにおける文化情報フィールドワークについて」, 『異文化別冊: 国際文化情報学とは—その可能性と課題』, 2010, 通巻第1号, pp. 201-210.</p> <p>大嶋良明, 「学部の情報教育について—これまでの歩み—」, 2010, 異文化. 論文編, 第11号, pp. 73-85.</p> <p>大嶋良明, 「学部初年次教育における授業改善の試み—ICTとePortfolioを中心として」, 『法政大学教育研究』, 2014, 第6号, pp. 65-82.</p> <p>大嶋良明, 「学部科目へのePortfolioの活用について: 立ち上がりの実施報告」, 2014, 異文化. 論文編, 第15号, pp. 137-153.</p> <p>以下は学会発表です</p> <p>大嶋良明, 佐々木健太, 田中勇太, 「Maharaを活用した学部教育の取組み—法政大学国際文化学部の事例報告—」, Mahara Open Forum 2013.</p> <p>佐々木健太, 大嶋良明 「紙資料の効率的仕分け機能を実装したMoodleとMaharaの連携」, 2013, Mahara Open Forum 2013.</p> <p>大嶋良明, 田中勇太, 「学部教育におけるeポートフォリオMahara活用の継続的取組み」, 2014, Mahara Open Forum 2014.</p> <p>大嶋良明, 「Hammond B3の発音原理のモデル化の試み」, 2018, ADADA Japan 2018.</p>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<p>情報学 (インターネット、情報メディア論), 教育学 (特にePortfolio、eLearning)</p> <p>電気・計算機工学 (信号とシステム、通信、確率過程、機械学習)</p> <p>音声情報処理 (音声認識、音響モデル、対話システム、ロボストネス)</p> <p>デジタル信号処理 (特にコンピュータ音楽、音響、マルチメディア)</p> <p>応用言語学 (異文化コミュニケーション)</p>
こんな授業を行なっています	<p>現代社会をメディアとしての諸特性においてとらえ分析することを目指しています。</p> <p>【多文化情報メディア論IA】 インターネット上のテキストや話題性の抽出、感情分析、ジャンルの分類、コンテンツの参照関係などを機械学習の手法を活用してコンピュータで分析します。現代のネット社会をメディアとしての諸特性においてとらえ、文化情報学的なアプローチでビッグデータの特徴量を分析するなかから、異文化理解に資する視点の開拓を試みています。 とくにインターネット上の言説に着目し、大規模データの分析手法やメディアデータとしての特徴や書物との違いについて学びます。</p> <p>【多文化情報メディア論IB】 音楽と楽器をテーマとしてとりあげる。スミソニアン学術協会が中心となって編纂するArtefactsシリーズより、アメリカ、イギリスとヨーロッパでの電気楽器、音楽制作との関連を学びます。文献購読にとどまらずフィールド録音、映画音楽、放送音源など様々なメディア媒体を活用して、演奏の記録や音楽史上での関連事項についても調べ理解を深めます。ミュージコロジーのさまざまな研究領域について認識できる。ここで取り扱うそれらの楽器や音楽手法に触発された現代の芸術家とその活動についても関連を学びます。</p>
学会や社会でこんな活動をしています	<p>法政大学市ヶ谷情報センター長 (2006-2007)</p> <p>法政大学グローバル人材育成推進事業 ePortfolio プロジェクトリーダー (2013. 9-2015. 3)</p> <p>法政大学FD 推進センター調査プロジェクトリーダー (2012-2014)</p> <p>法政大学教育開発支援機構 ICT 教育プロジェクト委員 (2011-2012, 2013-)</p> <p>以前の研究内容です</p> <p>Y. Ohshima, “ Environmental Robustness in Speech Recognition Using Physiologically-Motivated Signal Processing”, Ph.D thesis, Carnegie-Mellon University (1993).</p>